

政策ディベート研修（講師派遣型研修）

研修のねらいと概要

研修のねらい

日本人は、よく議論が下手だといわれています。これは、単に日本人の多くが、議論のしかたを学んだことがないのが原因です。議論のしかたを学ぶにはディベートが最適です。ディベートを学ぶことにより、議論に必要な3つの能力：傾聴能力、論理的思考力、意思伝達能力が効率よく身につけられます。そしてこの3つの力を活用し、職場の問題解決力が向上します。

第一に、傾聴能力が身につきます。傾聴能力とは、相手の主張に耳を傾け、その論点を見抜く能力です。ディベートでは、相手の主張に対して指定時間内に反論しなければ、その主張は肯定されたものとされます。したがって、相手の主張を的確に理解して、素早く議論すべき点を見抜く力が自然と養われます。傾聴能力が高まれば、より議論を噛み合わせられますし、それだけ政策について本質的な議論が深められます。

第二に、論理的思考能力が身につきます。論理的思考能力とは、自分の主張が成立する過程を、適切な根拠で抜けなく裏づけられる能力です。ディベートでは、肯定側・否定側のどちらがより論理的であったかを競います。したがって、論理的に考える力が自然と養われます。論理的思考能力が高まれば、複雑な状況下でも正しい判断が下せますし、人を説得しやすくなります。

第三に、意思伝達能力が身につきます。意思伝達能力とは、自分の考えを的確に表現し、相手に伝える能力です。ディベートでは、制限時間内で、第三者の審判に、自分の考えを理解してもらわなければ、勝つことはできません。したがって、自分の考えを効果的に人に伝える力が自然と養われます。意思伝達能力が高まれば、スムーズに議論が進みますし、誤解による問題発生も防止できます。

タイムスケジュール等も含めた具体的なプログラム

研修の特長

- ビデオを視聴し、ディベートを疑似体験、論理的思考のハウツウを速習できます。
- 研修の目的は、ディベート力向上ではなく、日常コミュニケーションや、思考スキルの向上、そして政策や条例の深い検討です。これを常に意識した研修をいたします**
- 演習ごとに講師からフィードバックすることで、問題点と改善方法が具体的に確認できます。
- 貴自治体の具体的な政策をディベートの論題とすることで、職員の問題意識の向上と具体的な課題、想定される議論が深められます。**

形式

体験学習
理論の説明 ▶ 演習 ▶ フィードバック ▶ 演習 ▶ 理解・定着の繰り返し

日数

2日間
9：00－17：00（両日とも） 昼休 12：00－13：00

人数

講師1名：12-20名（程度）

応用範囲

業務全般：政策検討、会議、交渉・交渉、提案、企画、その他

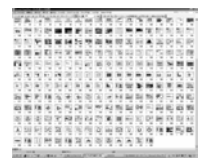
場所

貴所研修室



豊富なテキスト、ワークブックで、レベルや実情に即した、研修を実施





90枚の
パワーポイントで、
短時間に全ての
ノウハウを学習





20分のビデオで、
ディベートを疑似
体験。ハウツウが
すぐわかる



研修のステップ

を
ディベート【で】学ぶ
に

研修受講者はこうなります

1. **ディベートを学びます。**
一般的な政策論題を起用して、客観的な意見や議論の組み立て方、検証、論点整理、メモの取り方などの基本を学びます。
2. **ディベートで学びます。**
政策の是非はもちろん、想定される反論、根拠の検証などを深耕します。特にグループワークに工夫をすることで、講師が教えるのではなく、受講者自らが調べ、意見が組み立てられるようになります。
3. **ディベートに学びます。**
賛成、反対、審判の役割を交互に担うことにより、政策について多角的に検討する技術や、新しい課題の発見、説得力ある話の仕方をディベートの試合に学びます。また効果的なメモの取り方など各種ディベートのスキルをどのように業務に活かすかを確認します。

テキスト目次

- オリエンテーション 【1】
 - ・ディベート研修の範囲
 - ・研修の目標
 - ・研修の進め方
- ディベートの全体像 【2】
 - ・ディベートの実際（ビデオ視聴）
 - ・ディベートの構造
 - ・多角的な視点
 - ・試合の進行方法
 - ・ディベートとは何か
 - ・試合の進行方法と研修効果
- 論理的思考・演習 【6】
 - ・ディベートの基本
 - ・論理的とは
 - ・論理的思考の構造（三角ロジック）
 - ・演習
- 立論の方法 【8】
 - ・ディベート
 - ・試合の全体像
 - ・立論の方法、概説
- 反対尋問の方法・演習 【10】
 - ・反対尋問とは
 - ・反対尋問のポイント（何を確認するのか）
 - ・質問技法（どのように行うのか）
 - ・質問者、応答者の注意点
- 作戦タイム 【10】
 - ・作戦タイムとは
 - ・何をするのか
 - ・有効な活用方法
- 反駁の方法 【11】
 - ・目的
 - ・何をするのか
 - ・方法
 - ・ポイント
 - ・反駁のルール
 - ・第1反駁と第2反駁の違い
- プレゼンテーションの方法 【12】
 - ・基本的な考え方
 - ・理解するメカニズム
 - ・基本テクニック
 - ・実践活用
- 準備の方法 【14】
 - ・言葉の定義
 - ・リンクマップ
 - ・仮立論
 - ・資料収集
 - ・検討
 - ・模擬試合
- 審査の方法 【18】
 - ・審査とは
 - ・審査員の注意事項
 - ・審査基準
 - ・審査手順
 - ・反駁事項
 - ・コメント方法
 - ・フローシート例
 - ・審査の例
- 付録 【21】
 - ・各ステージにおける話し方の例
 - ・参考図書

政策ディベート研修

研修のねらいと得られる効果

タイムスケジュール等も含めた具体的なプログラム

講師プロフィール

2日間プログラム

時間	9：00-17：00 昼休 12：00－13：00、午前10分休憩2回、午後3回予定 ご希望に応じて、内容等全てをアレンジいたします。
----	--

	1日目	2日目
9:00	1. 【講義】ディベート概論（ビデオ視聴） 2. 【講義・演習】論理的思考の構造 3. 【講義】論理的にプランを説明するコツ 4. 【講義・演習】質問で議論を検証する	8. 【演習】本格ディベート準備 9. 【講義】論理的に議論を傾聴、分析 意思決定するコツ（審判）
12:00	昼食	昼食
13:00	5. 【講義】水掛け論と議論のズレを防く 6. 【演習】問題発見と解決策を共有するコツ 7. 【演習】ディベート試合① ・講師よりアドバイスと判定 ディベート試合② ・講師よりアドバイスと判定	10. 【演習】ディベート試合① ・講師よりアドバイスと判定 ディベート試合② ・講師よりアドバイスと判定 ディベート試合③ ・講師よりアドバイスと判定 ディベート試合④ ・講師よりアドバイスと判定 11. 【講義】まとめと振り返り （業務にどのように活かすか）
17:00		

汎用論題(1日目に使用します)

- 日本はポイ捨てや路上喫煙に罰金をかすべし
- 日本はサマータイムを導入すべし

各自治体でのオリジナル論題(例)

事前に受講者にアンケートを取り、ディベートできる論題を抽出します。ただしすでに決まっているもの、圧倒的に肯定、否定に有利なもの、高度に政治的なものは基本的に除外します。以下は、自治体職員にどのような論題でディベートをしたいかアンケートして得られた例です。★は平成23-27年実際に研修で採用した論題です。

- ★ゴミの収集は全て有料化すべきである
- ★開庁時間を延長すべし
- ★保育クラブの入所対象児童の学年を引き上げるべし
- ・レジ袋税を導入すべきである
- ・予算編成に市民の意見を反映させるべし
- ・電子申請を推進すべし
- ・簡易保育園を認証保育園化すべし
- ・昼休みを45分に戻すべし（現行60分）
- ・小学校の空き教室を保育園にすべし
- ・市民の自転車利用を支援・推進する施策を積極的に展開すべし
- ・災害時の緊急支援体制のために、要支援者の情報を地域の人々に公開すべし
- ・こども（中学生まで）の医療費を無料にすべし
- ・40年以上市内に在住する市民に「〇〇市居住手当て」を支給すべし

- ★窓口申請業務を一本化（総合受付で全て対応すべし）
- ★本庁舎を建て替えるべし
- ・合併して政令市になるべし
- ・動植物園を廃止すべきである
- ・フレックスタイムを導入すべし
- ・乳幼児健診を午前や休日も実施すべし
- ・公園を増やすべし
- ・公園・道路・水路等の施設管理の受付窓口を一本化すべし
- ・駅前看板に関する条例をつくるべし

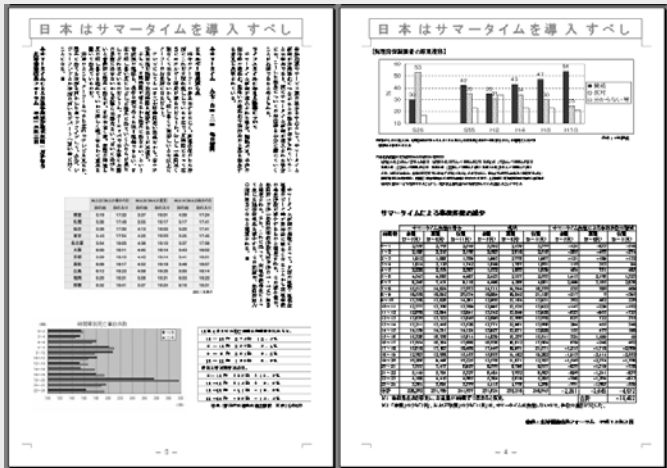
- ・定期人事異動を廃止して、本人希望による専門職の配置とすべし
- ・各地域に夜間・休日診療のための施設を作るべし
- ・エコポイントを地域マネー化すべし
- ・こども部業務の窓口を一本化すべし（子育て支援課、保育園、児童手当、幼稚園など）

- ★土日開庁すべし
- ★職員は、市内在住すべし（採用試験に市民枠を設けるべし）
- ・原子発電所を廃止すべきである
- ・学校（小中高学生）への携帯電話の持ち込みを禁止すべきである
- ・市民課窓口業務を民間委託すべし
- ・保育クラブの開所時間を延長すべし（現行18時まで）
- ・全て正規職員にすべし
- ・フレックスタイム制を導入すべし
- ・職員の時間外勤務を全面的に禁止すべし

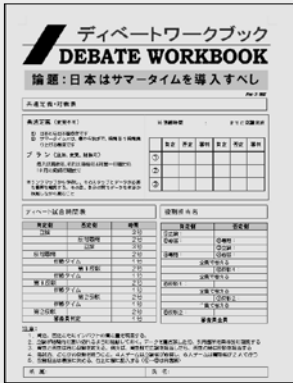
日本はサマータイムを導入すべし

この教材のポイント

- 主張だけの議論と根拠が明示されている議論をどう扱うか
- 相対する2つのデータをどのように判断するか
- 長期と短期の視点で意思決定する
- 不可逆性と代替性の比較検討
- 2つのデータから類似性と相違を見つけ出す
- コストと経済波及効果の関係を確認する



1日目のディベートは形に慣れるため、一般的な社会問題をテーマ（論題）にします。またデータ収集も時間的にもご術的にも難しいため、あらかじめ収集したワークブックを活用します。



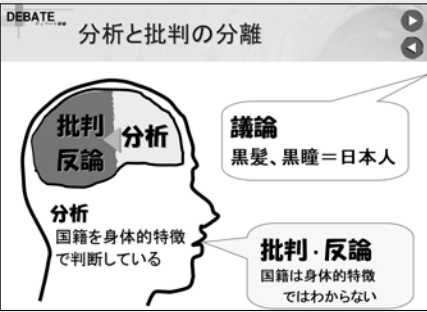
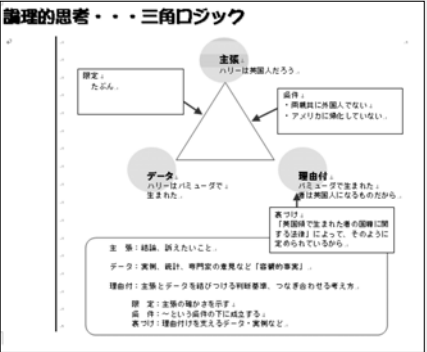
政策ディベート研修

研修のねらいと得られる効果

タイムスケジュール等も含めた具体的なプログラム

講師プロフィール

1.【講義】ディベート概論	ビデオ視聴により、ディベートを疑似体験します。研修の目的である能力開発のポイントや研修の進行方法を確認します
2.【講義・演習】論理的思考の構造	三角ロジック を学び、分析的に人の話を聞くフレームを学習します。また 演習 で分析スキルを定着させるとともに、水掛け論にならない議論構造を確認します
3.【講義】論理的にプランを説明するコツ	自説を証明するのに必要な、 発生過程 と インパクト の説明方法を学習します。議論を構造化し、わかりやすく説明する表現テクニックを身につけます。 ロードマップ、ナンバリング・ラベリング、反駁の4拍子 、議論の引用方法で議論の構造化を実現します
4.【講義・演習】質問で議論を検証する	不明な点、矛盾点を確認する。系統的に聴く、前提条件など隠れた本質の質問方法を学びます また演習により、意見を述べずに相手から情報を引き出す技術を確認します
5.【講義】水掛け論と議論のズレを防ぐ	複数の論点が出されたときに、どのように整理し、どのように議論深耕をすれば効率的で、本質的な議論ができるか、 批判先行型から分析と効果的な反論への視点 を確認します
6.【演習】問題発見と解決策を共有するコツ	リンクマップ法 で個々の問題と全体像を漏れなく、ムラなく、重複なく掴みます。書きやすく直ぐに実践できるだけでなく、問題の相互関係やデータを用いて証明が必要な箇所、ステップの説明で十分な箇所の整理ができます
7.【演習】準備 ディベート試合① ディベート試合②	3-4人程度のグループで、リンクマップ法の練習を経て、議論構築し、ディベート試合の準備をします ディベート試合により、論理的に考え、議論するスキルを磨きます。 試合ごとに講師から示されるアドバイスと判定を基にディベート試合を繰り返し、自身の問題と課題を確認します



練習問題1

次の文章を読んで、「主張」「データ」「理由付」となる考え方を分析してください。それぞれの設問に足りない要素が一つずつあります。足りないものは自分の言葉で補って右欄の三角形を完成させてください。

1) 日銀総裁が「景気は回復した」といったので、たぶん景気は良くなっているだろう。」

2) 一般的に日本人の特徴として黒髪、黒い瞳がある。たぶん彼は日本人だろう。」

3) 本部長が、「業績が 8000 万だったので、第一営業部は、よくやったなあ」と言った。」

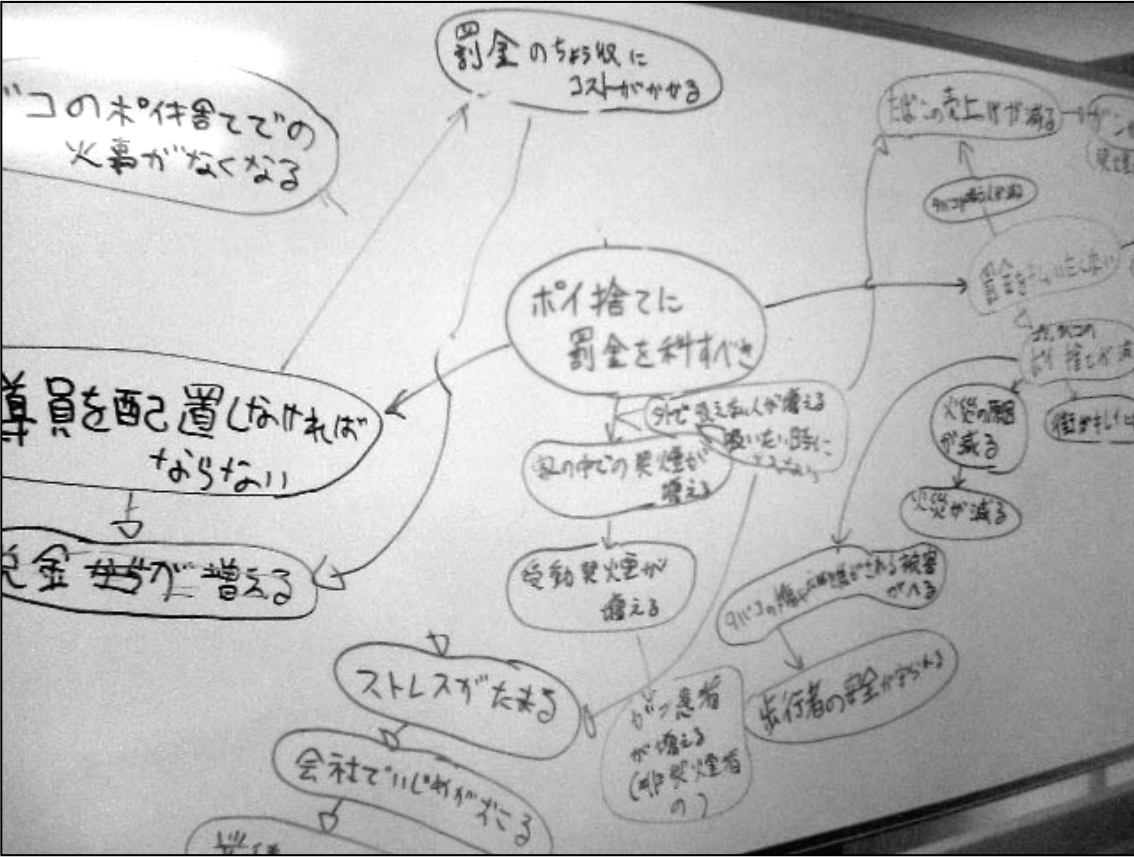
練習問題2

ある靴メーカーが、市場開拓のために優秀なセールスマン A、B の二人を南の島に派遣した。幸いであると、現地の人たちは皆裸足だった。」

そこで、セールスマン A は「ここは有望な市場です。みんな靴を履いていません。」と報告をした。セールスマン B は「ここは全くダメです。みんな靴を履いていません。」と、A とは逆の報告をしてきた。」

以上の例題を、三角ロジックを使って分析して下さい。

リンクマップ法で全体を俯瞰する



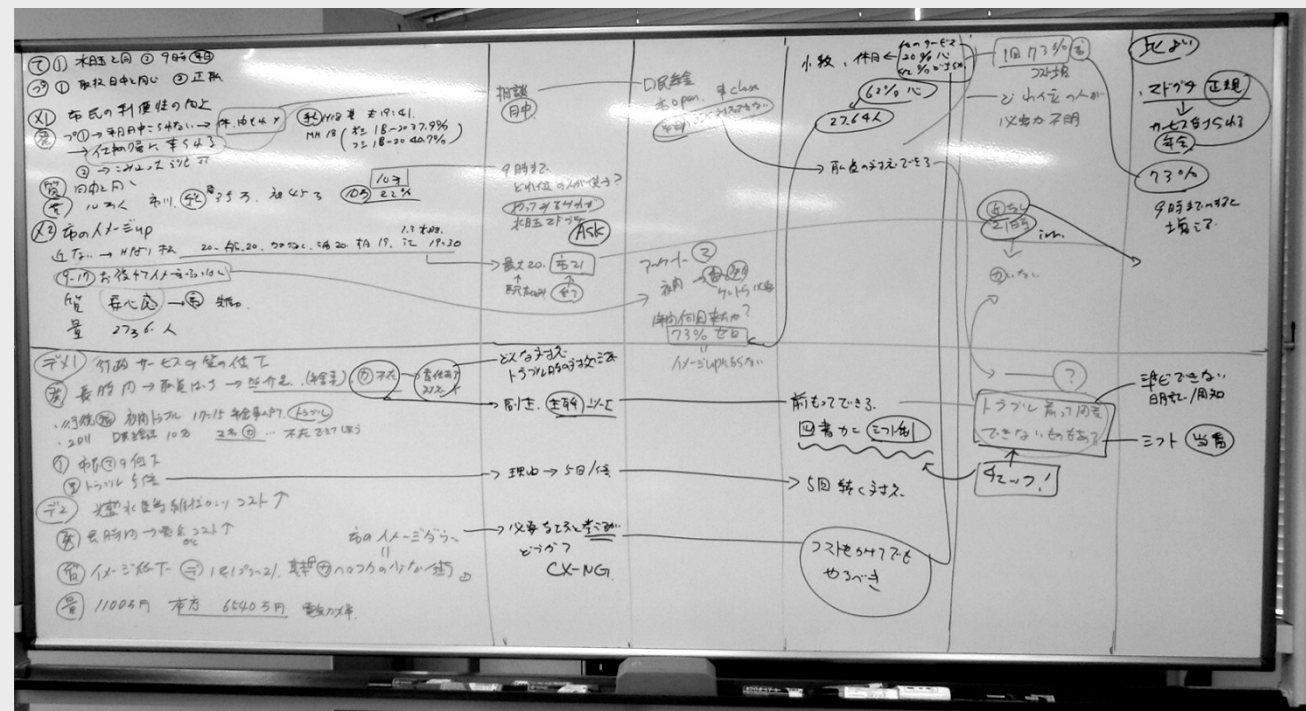
政策ディベート研修

研修のねらいと得られる効果

タイムスケジュール等も含めた具体的なプログラム

講師プロフィール

8.【演習】本格ディベート準備	前日の演習で確認された自身の課題解決のために、論題とグループ編成を変えて演習の準備します
9.【講義】論理的に議論を傾聴、分析、意思決定するコツ	主観を排除し、データや理由付けで論理的に判断する心構え、手順、判断基準を学習します
10.【演習】代表的な対戦の組みかた ディベート試合① 論題1：ごみ有料化 A vs B ディベート試合② 論題2：土日も開庁 C vs D ディベート試合③ 論題1：ごみ有料化 B vs A ディベート試合④ 論題2：土日も開庁 D vs C	ディベートの3つの役割である、肯定、否定、審判を3回の試合で全てを体験し、論理的思考の実践力向上を目指します。もちろん試合ごとに講師から示されるアドバイスと判定を基にディベート試合を重ねること、講師との試合対戦によりスキルアップの効率を高めます。 審判では主観を排除し、論理的に判断するだけでなく、根拠を示して自身の判定を説明し、聞き手を納得させるコメントの練習をします もちろん、論題（政策）についても深く思考・検討します
11.【講義】まとめと振り返り	ディベートのためのディベートではなく、能力開発研修であることを再確認し、論理的思考の大切さ、どうすれば更に伸ばすことができるのかを確認します



ディベート試合のメモ例

講師は、ディベートの試合をホワイトボードにメモを取り、好ましい議論と不適切な議論を指摘します。また、どのようにすれば議論が深まるかを指導します。受講者は次の試合にその内容を活かします。

※「講師と対戦」、「ホワイトボードにメモを取って講評」は他社にはない弊社独自の内容です。

ディベート試合の風景



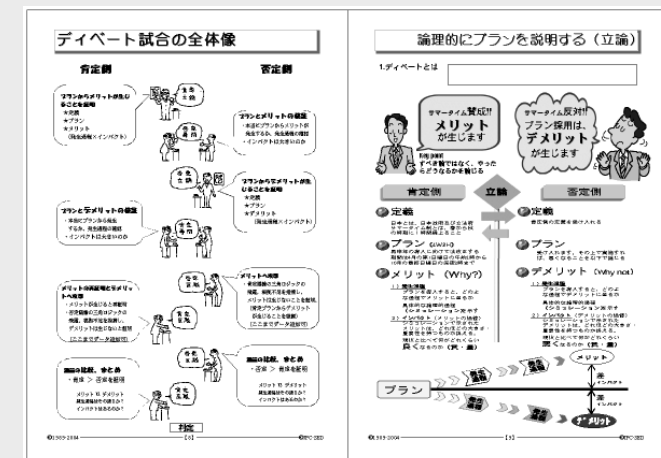
作戦タイムで迅速な論点整理、争点共有を図る



試合に勝つことではなく、本質を検討し、議論を総括する



グループでリンクマップ作成し、智恵を結集させます



テキスト

※プライバシーに配慮して、画像を加工しています。

政策ディベート研修

研修のねらいと得られる効果

タイムスケジュール等も含めた具体的なプログラム

講師プロフィール

別 所 栄 吾 （べっしょ えいご）

株式会社BCL 代表取締役
財団法人関西生産性本部
パートナーコンサルタント
国際ディベート学会公認 ディベートトレーナー
厚生労働省認定 産業カウンセラー



《専門領域》

ロジカル系 ロジカルシンキング、ロジカルプレゼンテーション、
ロジカルライティング、ロジカルネゴシエーション、
ロジカルファシリテーション、ビジネスディベート、経営戦略ディベート
人事系 人事考課者、目標による管理、フィードバック面接 リーダーシップ、中堅社員、係長研修
キャリア開発、新入社員マナー 問題解決研修ほか

《経歴》

1969年 神奈川県生まれ、拓殖大学政経学部卒業。1988年6月 名古屋外国語大学教授 松本道弘氏に師事。ディベートトレーナー研究会などを運営、また国際ディベート学会などでも研究発表を重ねる。
1992年4月 財団法人日本生産性本部入職、衛星放送（JC-SAT）による企業向け教育番組制作を始め、経営者、管理者、新入社員、ディベート能力開発シリーズなどの教育用ビデオ教材、CD-ROMで学ぶ経営診断マニュアルなどの開発に従事。またディベート教育の普及のため、日本ディベート協会や全国教室ディベート連盟主催ディベート大会（略称：ディベート甲子園）、全日本学生ディベート大会などで審査員（主審）を務める。
1996年9月、国際連合、ハーバード大学、UCLAノースリッジ校等でのコミュニケーション教育の現状を調査するため訪米。1999年産業ディベート開発センター長（現 知の技術研究開発センター）、年間70回（120日）以上の研修を実施する傍ら、ディベート、プレゼンテーション研修等のプログラムを開発、多数の講師養成を図り事業を拡大させる。
また2002年よりグローバルトップセミナー（経営者向け）の企画・運営を担当、米国政府（USTRほか）、中国、インド政府（商工労働部）など各国政府、シンクタンク、現地有力企業と協力し、企業経営者の現地視察と文化理解講座を2006年度まで担当。2003年3月同本部 経営アカデミー 人的資源管理コース修了。2007年1月同本部退職。2月より現職。年間180日程度出講している。2013-14年拓殖大学客員教授（13年度学科目：産業と人間、14年度：世界の中の日本）。2014年東北公益文科大学非常勤講師（政策ディベート）。

《発表論文、著作等》

テレビ
ラジオ
ビデオ
教 材
『党首討論コメント』やじうまプラス
『中西哲生のクロノス』 追跡コーナー
『ディベート能力開発シリーズ 短期集中講座』
『ディベート能力開発シリーズ ビジネスディベート入門編』
『変革型管理者と変革型マネジメント』
『新入社員ベストマナー講座』
書 籍
『ディベートに学ぶ 会議の技術』
『成果主義を活かす自己管理型チーム』（共著）
『あなたの話は、なぜ伝わらないのか？』
『会議は長いのに、なぜ何も決まらないのか？』
『あなたの職場は、なぜ問題ばかり起こり続けるのか？』
論 文
『タイプ別従業員の欲求に基づくプロセス成果主義の提唱』

テレビ朝日
TOKYO FM
生産性映像
生産性映像
生産性映像
生産性映像
生産性出版
生産性出版
日本経済新聞出版社
日本経済新聞出版社
日本経済新聞出版社
経営アカデミー

《研修実績》

国家公務、地方公務、電気、ガス、輸送用機械器具製造、通信、情報通信機械器具製造、
精密機械器具製造、電子部品・デバイス製造、金属製品製造、銀行、証券、保険、情報サービス、
広告業、鉄道業、建設、鉱業、化学工業、医療業、飲食料品卸売、宿泊、学校教育 ほか

3月31日に引き続き、4月21日15時から実施された党首討論について、議論の分析や改善点のコメントが欲しいという依頼を再び受け、別所が答えました。これ内容は、4月1日ならびに4月22日の午前7時ころ、テレビ朝日の「やじうまプラス」の中で放送されました。今回は、前回以上に課題や改善方法を詳細にコメントしております。詳しくは、www.bzcom.jpをご覧ください。放送概要と未放送のコメントがご覧いただけます。（平成22年）

4月22日放送



4月1日放送

